

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190700031		
法人名	有限会社さわやか門前		
事業所名	グループホーム浜		
所在地	佐賀県鹿島市浜町乙2591番地1		
自己評価作成日	平成23年3月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成23年3月26日	外部評価確定日	平成23年5月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者一人一人の要望を聴き、それを迅速に実現していき、明るく楽しい居心地のいいグループホームでありたい！</p> <ul style="list-style-type: none">・月に一度は、皆さんと一緒においしいものを食べに行き、楽しいものを見たり聴いたりしています。・書の大作が出来てきています。・毎月写真入りの楽しいおたよりが出来ています。・運営推進会議を地域の方と楽しく開催しています。・地域の方と「認知症を知る会」に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>毎月の外出や敷地内の広い畑の世話など、職員だけで足りない部分は臨時の有料サポーターで対応してみたりと代表者は入居者のためにあらゆる手立てを考えている。職員もまた、それに応えており、明るく、チームワークの良さが感じられる。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のミーティングを月1回実施し、理念を共有し、意見を取り入れ処遇に活かしている。	理念は代表者の思いから作られている。毎月のミーティングで配られるレジュメの冒頭には、その理念をより具体的に記した文言があり、そこで職員の意識を統一している。見守りと傾聴の姿勢に、それが活かされていることがわかる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣保班の回覧板を回したり、月1回の溝掃除に参加している。近所の方から新鮮なお野菜を頂いたり、老人会のグループでカラオケ慰問に来られたり、保育園の発表会や運動会に招待していただいたりと交流している。	自治会に加入し、地区の行事や清掃活動などにも積極的に参加している。近隣住民の立ち寄りも多い。また、事業所内でプロによる落語会やミニコンサートなど地域参加型のイベントを開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターの方と共に、近隣の公民館で「認知症を知る会」を開いている。平成23年3月17日久保山公民館、3月18日浜中町公民館で予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で話し合うことによって、老人会の方がカラオケ慰問にきてもらったり、災害の時に近所へ知らせるサイレンを取り付けたり、「認知症を知る会」に多数参加していたりするように協力してもらっている。	メンバーの出席率も良く、活発な意見交換の場となっている。意見は内容によって、即決できるものかミーティングに回るものか判断され、事業所の運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所福祉事務所の方と生活保護の方の連絡調整をしている。包括支援センターの方とは、運営推進会議の事や、「認知症知る会」の事で連絡調整をしている。	市町村担当者が運営推進会議のメンバーでもあることから、日頃から顔なじみであり相談事も言い易く、実直に対応してもらえる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に利用者の動向を注意し、帰宅願望が強い時や落ち着きがない時などは、よく話を聴き、さりげなく会話をしたり、玄関を出られる時は、気持ちがすまれるまで付き添い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に施錠はなく、センサーによってチャイムが鳴る仕組みとなっている。職員は入居者の習慣や傾向を把握し、さりげない見守りと連携プレーでフォローし合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで話し合ったり、職員一人一人の悩み、不安、やりがいのある仕事内容等を良く聴き、出来るだけ解決していき、働きやすい明るい職場であれば、利用者にとってもいごちのいい場所となると思っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「認知症を知る会」でも司法書士の方に成年後見制度について話していただけるよう学ぶ機会を持ち、必要と思われる方には、ご家族と相談し、成年後見制度を活用されるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者やご家族がわかりやすいように説明をする努力をしている。その時々不安や疑問点があれば伝えていただき、すぐに解決していきたい旨を話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の時や、面会に来られた時にグループホームに対し意見や要望が話しやすいように職員で心がけ、また、玄関に意見箱を設置している。要望があればミーティングや朝の申し送り時に検討し、サービスに取り入れるようにしている。	利用料は原則来所支払いとし、家族の面会が多くなるようにしている。玄関にも意見箱を設置しているが、家族には何でも話してもらえるような雰囲気作りに努めている。意見や要望があれば速やかに周知したり、ミーティングに図るなどして対応している。事業所の外に意見、苦情の窓口があることも伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、申し送り、勤務時などいつでも職員の意見や提案は聴くようにし、反映させている。	非番者も出席する月1回のミーティングや毎朝の申し送り時など、職員が細かい気付きなどの意見を言う機会は多い。代表者や管理者は職員の声に耳を傾けそれを活かしている。最近の例では、家族へ状況を伝えたりする場合、その記録簿を作る提案があり、それによって二重に連絡することがなくなり、内容を全職員が把握できるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の体調、家族環境等も考慮し、聴きながら働きやすい職場となるように勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が自分で選んだ研修を、受けやすい環境にし、働きながら日々トレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会に参加し、いろんな勉強会などによってサービスの質の向上をめざしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、本人と家族に見学に来ていただいたり、本人に会いに行き、要望などを聞くようにしている。入居日には、職員が一人つけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にグループホームを見学していただき、出来るだけわかりやすく説明をし、要望や、本人の事を詳しく聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に今までの暮らしぶりや、これからの希望を聞き、今必要な支援を考え、実行していくように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の生活や、料理のことなどいろいろ教えていただいている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や受診時、面会に来ていただいた時に、ご家族の気持ちや悩みなど聴くことが出来、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されてから、出来るだけ面会に来ていただけるようお願いし、自宅や近所へドライブし今までのことを教えてもらっている。	入居時には昔(若い頃)の写真を持って来てもらい、それをきっかけに話をしたり、思いを語ってもらうことで入居者を理解していこうと努めている。希望があれば電話を取り次いだり、自宅辺りまでドライブしたりと入居前から馴染みの関係を断ち切らないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒におられる食堂のテーブルの座席を大切に考えている。利用者同士がいい関係で支えあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来るだけ会いに行くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中から自然に希望、意向を聞き、その時々への対応に努めている。	目線を合わせ表情を見ながらという日々の関わりの中で、入居者の何気ない一言にも注意を払い思いの把握に努めている。また、支援につながればとそれぞれに日記用のノートが配られ、書き綴っている入居者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、居宅のケアマネさんからよく聴いて情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話や行動をよく観察し職員間で情報交換をし、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで職員間で話し合い、ご家族とは家族会や面会時に意向を聞き相談し、かかりつけ医とも受診時に相談し意見を聞き、訪問看護で週1回来てもらっているの細かいことから聴くことが出来、介護計画に反映し作成している。	毎月のミーティングのレジュメには入居者ごとの欄があり、全ての職員が状況を把握できるようにしている。また、家族との面会時も思いや意向を聞き計画に反映させるよう努めている。計画の見直しは設定期間に拘らず、変化があればその都度、臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添った記録をし、情報共有やプラン見直しに活かしている。一人一人の受診時の記録やご家族との連絡帳を作り、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ミーティング等での話し合いの結果や、入院後、また状態が変わった時には、プランの変更をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院や、近所のトコヤさんへ行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのその方のかかりつけ医に定期受診は出来るだけ家族へお願いし、職員も付き添ったり、家族と連絡を取りながら職員だけで付き添ったり、適切な医療を受けられるように支援している。	入居までの馴染みの医師による継続的な医療が受けられるように支援している。受診には緊急を除き、基本的には家族が付き添うが、日常の様子は職員から聞いて行くためスムーズに済んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護に1週間の状態を伝え、相談、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ合いに行き、様態を尋ねたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針をつくり、職員、家族と話し合いをしている。	これまでに看取りの経験はない。入居時に重度化した場合の説明をしている。希望があれば看取る用意はあるが、本人や家族の気持ち、また事業所の状況もその時々に変化していくことから、話し合いは何度も重ねるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の職員に急変や事故発生時の応急手当や初期対応の訓練を指導してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回は消防団と隣保班の方の協力を得、避難訓練を行っている。	年1回、午前中に消防署や近隣住民の参加も得て避難訓練を行っている。全ての職員は消火器の使い方を理解している。運営推進会議での意見がきっかけで外へ向けて緊急を知らせるサイレンが設置されており、災害時は近隣住民もかけつけていただくような体制が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇りやプライバシーを損ねないような対応をしている。	入居者を年長者として敬意を払い、ケアをおこなう姿勢が伺える。支援が必要な時は、まずは本人の気持ちを大切に考え、さりげない介助が行われている。また、ホーム便りに掲載されるスナップ写真については本人や家族の了承を得ている。守るべき情報についても責任ある取り扱いで管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を構築できるようコミュニケーションを図り、自己表現や決定が出来る環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日の状態や気分によって本人の意思を尊重しながら過ごしてもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時等、髪をとかしたり、鏡の前で身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや意向に沿ってメニューを考えている。利用者が出来ることを把握し、皮むきやごますり、野菜を切ったり、食器を拭いていただいたりと、出来ることを職員と一緒に支援している。	その日のメニューは入居者と相談しながら決めるようにしている。お茶を汲んだり、おしぼりを配ったり、入居者は職員に見守られながら出来ることを手伝っている。食事は全員が同じテーブルを囲み、テレビはつけず、賑やかに会話をしながら食べている。入居者には笑顔が見られ食事を残すことは殆どない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、メニューが偏らない様に配慮している。水分は、好みのものを出したり、試行錯誤しながら不足にならないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、その方に合わせ、口腔ケアの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の動向に注意し、さりげなくトイレに誘導している。排泄パターンを把握し適宜言葉かけ誘導を行っている。	本人のリズムを把握し、時間を見計らったり自尊心に配慮して、さりげない誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操や、廊下の歩行を促し見守る。水分補給、繊維のある野菜を多くメニューに取り入れる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ホーム内行事以外の時は、利用者の健康チェックを行い、2～3日おきくらいの入浴を心がけている。	入浴のチェック表が貼られ、職員には一目で分かるようになっている。回数は週2～3回を目安としており、拒まれる場合は間を置いたり声掛けの職員を換えたりして対応している。冬場の脱衣場は暖かく温度差に配慮している。服の脱ぎ着も出来るだけ本人に任せ見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後30分でも横になり休んでいただくよう支援し、夜間冷え込むときは、湯たんぽを置いて安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などを調べられるように、プリントや薬の本を置き、症状の確認に勤めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭き、習字、カラオケ、外でのお茶や、バーベキューなど、コンサートや昼食に外出し気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回外出の計画を立て出かけたり、入居者の外出希望があった場合は、極力出かけられるよう努力している。	職員が献立用の買い物に出る際、入居者も同行し、おやつや日用品の買い物をすることもある。更に、毎月のイベントとなっている外出は入居者にとっては大切な楽しみ事である。1対1での介助が必要な場合はサポーターで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持しておられたり、要望に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙が自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快や刺激がないように配慮している。	玄関はすっきりと片付けられ、共用のホールに華美な飾りはない。大きな窓からは自然光はもちろん隣家の椿など花木も見えて季節が感じられるようになっている。一部に畳敷きもあり昼食後のひとときは思い思いの場所で寛いでいる。また、「書」の作品が賞状と共に飾られ励みとなっている。浴室やトイレ等はきれいに掃除され臭気は全くない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂でテーブルを三箇所に分けたり、一列に並べたり、畳の空間もあり、ソファでくつろいでもらえる様工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていたなじみのある物を持ってきていただくようお願いしている。	入居者は馴染みの物を部屋に置いている。居室の掃除は職員が行うが、タンスの上など細かい所は入居者も出来る範囲で手伝っている。居室内に本人が書いた好みの「書」などが飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に出来るだけ自立した生活が送れるように工夫し支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない